

平成17年度 第37回全国公立小中学校事務研究大会兵庫大会参加報告書

七ヶ浜町立向洋中学校

主事 工藤 正行

日時：平成17年7月27日（水）～平成17年7月29日（金）

全体テーマ 「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」

今変革のとき ひょうごから学校事務ビジョンの橋を架ける

特集テーマ 「学校情報の広報・公開と責任」

キャッチフレーズ 「はばたけ明日へ！兵庫の風にのって」

第1日目 於：神戸国際展示場2号館 コンベンションホール

(1) 挨拶

① 実行委員長 木村 信哉 氏

- ・学校経営にどうかかわっていくか
- ・学校の危機管理（自然災害、人的災害を合わせて）と学力の向上
- ・事務職員が学校の情報公開とどのようにかわっていくか
- ・「教育に停滞があってはならない」…震災直後の子どもたちの笑顔を忘れない

② 全事研 会長代行 丹治 益栄 氏

- ・学校を取り巻く環境が劇的に変わっている最中
- ・電算化&プライバシー保護 → 事務の増加



- ・マネジメント・カリキュラム→これに対応できる職員の育成が課題

③ 文部科学省初等中等教育局長 代読 初等中等教育企画課 課長補佐 若井 祐次 氏

- ・21世紀に活力ある未来を切り開く
- ・子どもは国の宝 → 頑張る子どもを育てる＝国家戦略である

④ 兵庫県副知事 藤本 和弘 氏

- ・震災より10年 活力ある出発の年
- ・物質面の充実⇔地域・家庭での人のつながりで問題が発生している←強めていく必要

I 生徒に体験の場を与える

II 家庭の支援

III 生き生き学校応援団

} 一体となって取り組んでいる

⑤ 神戸市長 代読 神戸市助役 梶本 日出夫

- ・唯一の行政職員
- ・教職員の資質向上、学校経営
- ・教育を取り巻く状況は危機を迎えている←対応したければならない問題がたくさんある
- ・「人は人によって人になる」 ・「分かる授業・楽しい学校」
- ・「地域・社会・学校の連携」 ・「情報発信」

⑥兵庫県教育長 吉本 知之 氏

- ・震災時に支援をいただいたお礼をしたい

震災を風化させてはならない（10年で住民の半数が入れ替わったという背景）

↓

支援チームの設立（小・中・高の連携）例）①災害が起こったときの支援

②心のケアをどうすればよいか

- ・社会のあらゆる分野での構造改革の時代 → 市町村合併により教育委員会が減る

中教審答申

- ・変わらないこと 「身近なところで行政をすすめる」

⑦全国連合小学校長会長 代読 副会長

- ・事務の山積、増大→社会の流れに敏感でなければならない

・「信頼される学校づくり」 教育の機会均等、水準の維持

- ・校長として自信、力、誇りを深める I 子どもの力を高める

II 校長が教職員の力を高める

III 校長自らの力を高める

- ・現状での学校事務の研究はたいへん重要である

(2) 文部科学省行政説明

説明者 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 課長補佐 若井 祐次 氏

1 学校教育の現状

前全事研会長が校長となった ← 校長を目指すのも1つの道

戦後60年の総決算の時

- ・中教審答申→両論併記

・学校が変わったところ 評価が必要←時間がない

- ・未来を託することのできる子どもを育てることができるか

学力の状況 低下傾向 読解力・自由記述の無回答率の増加

国の負債 781兆円（平成16年度末）

国家予算 昭和49年：30兆円 昭和60年：60兆円

国民一人あたり240万円の借金→財政再建→3兆円＝義務教育費

教育に力を入れることは諸問題を解決するのに最短の近道 日本の国力の源＝人材（人財）

## 2 中央教育審議会の審議状況 審議経過報告（その1）

新しい時代の義務教育を創造する－基本的な視点－

(1) 国際的に質の高い教育の実現を目指す

- ・義務教育の使命の明確化
- ・教育内容の改善
- ・義務教育に関する制度の見直し

(2) 教師に対する揺るぎない信頼を確立する－教員の質の向上－

(3) 現場の主体性と創意工夫で教育の質を高める－学校・教育委員会の改革－

- ・学校の組織運営の見直し
- ・教育委員会制度の見直し
- ・国と地方、都道府県と市町村の関係・役割

(4) 確固とした教育条件で整備する

### 審議経過報告（その2）

(1) これまでの議論を通じての共通理解

- ・義務教育は国全体の最重要事項
- ・義務教育に必要な財源を確実に確保する必要がある

(2) 義務教育国庫負担制度の在り方

平成16年11月の政府・与党の合意は、その根幹の維持と国の責任の堅持を理念とし、費用負担についての地方案を活かす方策と教育水準の維持向上を含む義務教育の在り方の検討を求めている。これらの検討は、「義務教育制度の根幹の維持と国の責任の堅持」という優先すべき理念の中で行われる必要があり、当特別部会では、その前提で義務教育国庫負担制度に関する検討を行っている。

〈検討の3つの観点〉

①教育の質の向上 ②財源確保の確実性と予見可能性 ③地方の自由度の拡大

## 3 義務教育改革の推進－知力・体力・品格を育成する教育－

- ・子どもたちの「人間力」を強化
- ・「教師力」を強化
- ・「学校力」を強化

## 4 まとめ

- ・全国380校でスクールミーティングを行った→学校現場が大事であるとの自覚、収穫があった
- ・時代を反映させるスピード ← 学校へのフィードバック（例：学力調査等の結果）
- ・文部科学省として、この教育改革を胸をはって案を示したいと考えている

### (3) 全体研究会

テーマ 「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」

今問う 子どもたちの安全 -いかに活用されたか 学校情報-

#### ① オリエンテーション

(1) 「阪神・淡路大震災の報告」 兵庫支部長 田原 修一 氏

- ・(学校は) 子どものみでなく地域の安全、安心の場所
- ・体育館等への被災者の避難状況 ①着の身着のままの方  
②老人、障害者←各教室を開放した
- ・水 貯水槽が空になった→復興後貯水槽の位置を校庭へ移した
- ・電気 ドラムリールが加熱しブレーカーが落ちた
- ・ガス 復興後はプロパンガスも併用できるシステムにした
- ・食料などの情報収集、提供→文書等で行った 信頼関係の構築
- ・国庫補助対象の備品の調査 当初は申し出のみ→その後写真付で報告
- ・行政の負債 借金264億円(平成16年度) 学校へは130万円の減額配当
- ・JR 福知山線衝突脱線事故 近くの中学校が自発的に援助した
- ・地域の協力が必要←普段の信頼作りが重要

(2) 「新潟県中越地震の経験をふりかえる」～学校事務職員の立場から～

新潟支部長 金井 洋子 氏

- ・長岡 震度6弱 携帯電話の光でラジオを探した
- ・翌日に出勤→信号が止まっていた→住民がすでに逃げていた→安全点検の実施
- ・住民の要望をかなえるのに必死であった
- ・生徒の安否確認→携帯電話のメールが役立った
- ・子ども部屋、受験生対策の部屋を設置
- ・学校の再開準備、耐震整備
- ・再開→子どもたちの笑顔がさわやかだった
- 防災計画どおりにはいかなかった(たまたま土曜日で生徒はいなかった)
- ・地域防災センター、市(行政)との連携が必要
- ・学校職員として何ができるかが課題
- ・事務職員の支援(共同実施等)→ホームページ上へ情報を up してくれた
- ・有事の際の個人情報の管理も課題

## ② シンポジウム「学校は夢を育む安全で楽しいところ！」

- シンポジスト
- (1) 工藤 和美 氏 東洋大学工学部建築学科教授
  - (2) 坂田 仰 氏 日本女子大学家政学部家政経済学科助教授
  - (3) 勝山 浩司 氏 兵庫県宝塚市教育委員会教育長
- コーディネーター 廣田 正子 氏 千葉県八街市実住小学校事務長

### I 自然災害について

勝山：・宝塚市の防災に関する現状報告

(町づくり推進室による地域とコミュニケーションづくり)

- ・各種団体（地域交流室、防災対策課等、自主防災組織等）からの参加による防災会議の開催 cf.宝塚市HP <http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/>
- ・いざという時防災マニュアル通りに動けるか？（法則は活用してこそ活かされる）  
学校事務職員のみでの限界 学担→担任している生徒のみ 事務職員のみで見る

坂田：・マクロ（自然災害）からミクロ（個人情報流出）の危機管理

- ・「私」と「公」、「本来業務の維持」と「避難者対応」、「家族と生徒」と「目の前の避難者」。プロとしての優先順位、バランスをどうつけていくか。
- ・管理職だけでなく一人ひとりのマネジメント能力が試される  
全体を見渡せる目を持つ 危機管理官としての立場も持つ

工藤：・保護者の目、教える立場から見た学校づくりに取り組んでいる

- ・学校はもっとスペックアップすれば、安全を守る有能な避難施設になる  
事務職員のみで見る  
避難経路の設定に専門家がいるか？ 学校は町、町は学校（社会の縮図）
- ・事務職員が地域と学校をつなぐ要になり、リーダーシップを発揮することで可能性を見出してほしい

### II 人的災害について

坂田：付属池田小の事件 昔は地域の人顔を知っていた 止めるチャンスがあった

池田小だから起こった事件（国立学校の特殊性）→地域に開かれた学校ではなかった

寝屋川小学校の事件 卒業生 学校に卒業生の情報が入っていれば防げたのでは…

- ・類似事件を防ぐために、関係者には正確な情報が開示、共有の必要性がある
- ・冷静な判断能力を持ったシステムづくりとそれを支える人間関係の復活が必要

勝山：・人的災害に特効薬なし

- ・宝塚市では防止策（防犯ブザー、アトム110番連絡所）対処策（県警とのホットライン、携帯への安心メール等）事後策（対処センター、スクールカウンセラー、加配教員等）が実施されている  
地域とのコミュニケーションが必要不可欠

工藤：・それぞれの学校の状況に応じて何が足りないか、何が必要かを大人が考えて危機管理意識を高めることが大事

・みんなにやさしい環境、安心できる環境を作ることが最終的には安全づくりにつながっていく

町のマスタープランごと作成→地域の目のある町づくり

NPO スクールデザインネットを立ち上げた デザイン⇔学校安全

### Ⅲ 子どもたちの安全についてと情報管理

工藤：・「安全」と「学校施設」との関係では、受付（事務室や危機管理センター）をどこに置くかが重要 アクセス・ゲート・キーパーとしての事務職員の役割

ex 生徒の写真を持って逃げる 丁寧に対応して時間をかせげる場合がある

・（事務職員）本人が責任意識を持つために役割は必要。役割交替をシフトさせていくことも必要

坂田：・個人情報保護に縛られて教育が萎縮してしまてはいけない

・危機管理、情報管理の役割を事務職員の自己アピールの手段として将来の目標と重ね合わせて役割交替・複数配置の可能性を、全事研を中心に展開してみてもどうか

渉外をすると自治体と民間の立場両方を理解しなくてはならない

情報公開 出している情報と出してはいけない情報がある

どこからが良くてどこからがだめかの線引きが必要

現状では必要な情報の共有の点が弱い

情報のエキスパートとしての実力が必要→情報管理官としての能力

プロ意識を持って新しい地平を切り開いていく必要がある

勝山：・危機管理、情報管理を受けて定数増を要求してはどうか

・災害時には共同実施が有効である

本務を頑張してほしいが、学校で2足のわらじを履けるのは事務職員のみ

共同実施 初任者～定年まじかの方々まで幅広い年齢層

横のつながりが必要、いざという時に必要

情けに報いる →「情報」 1つ1つの積み重ねが大事

第2日目 第2分科会（和歌山支部） 於：兵庫県民小劇場 ホール

テーマ 「今こそ子どもが主人公になる学校づくりの輪を広げよう！」

ーキラキラ輝く瞳から、学校事務の未来への可能性を探るー

助言者 福島大学総合教育研究センター 教授 宮前 貢

タイトルを決めるにあたって→和歌山県らしさとは何か？ 県の持っている歴史の重み

はじめに

県下8ブロックで構成されている

教育目標の達成 ← 日々実践 つれもっていこら＝一緒に行こう

学校とは 子どもが太陽、その周りを教職員等が回っているところ

学びたがっている子ども達が集まってくる＝みんな向上心の固まり

(1) 学校財務 望ましい新時代の学校事務を求めて

研修部…職務内容の研究

研究部…実務に関する研究 ← 事務職員の専門性を探る

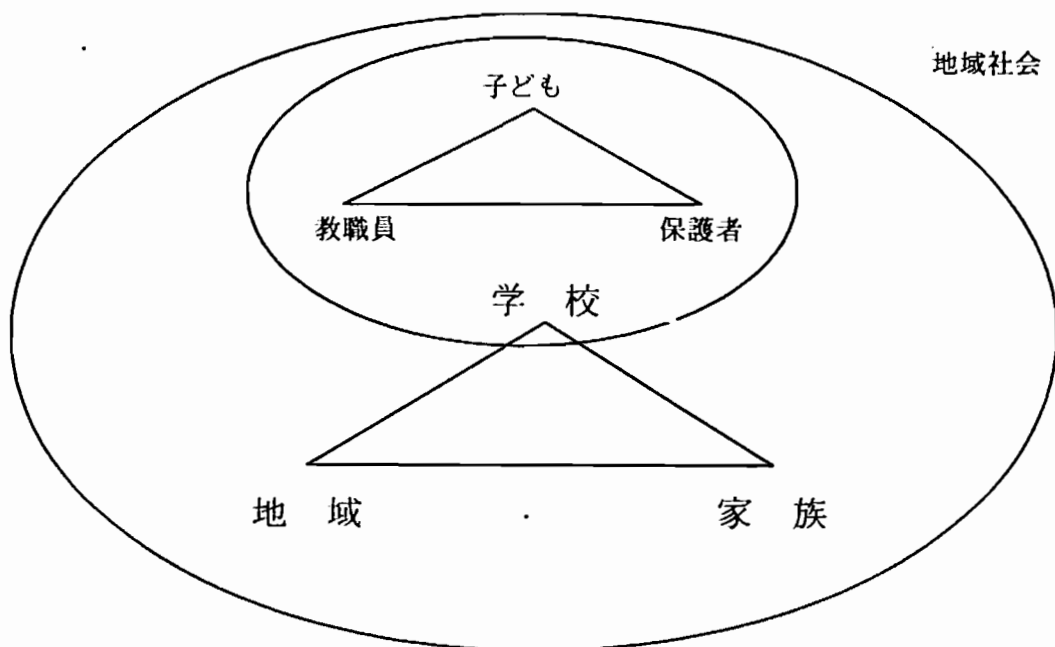
①決算書の作成 キャンペーンを展開

モデルケースをつくるのは困難 → 学校の実態に応じたものを作成

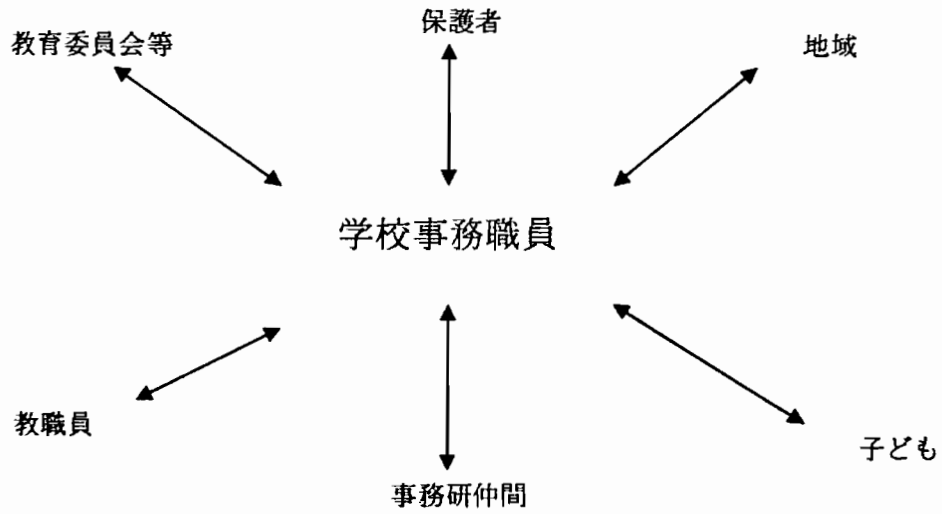
②決算書を学校財務の他の分野へ反映させるのが今後の課題である

365日考えている

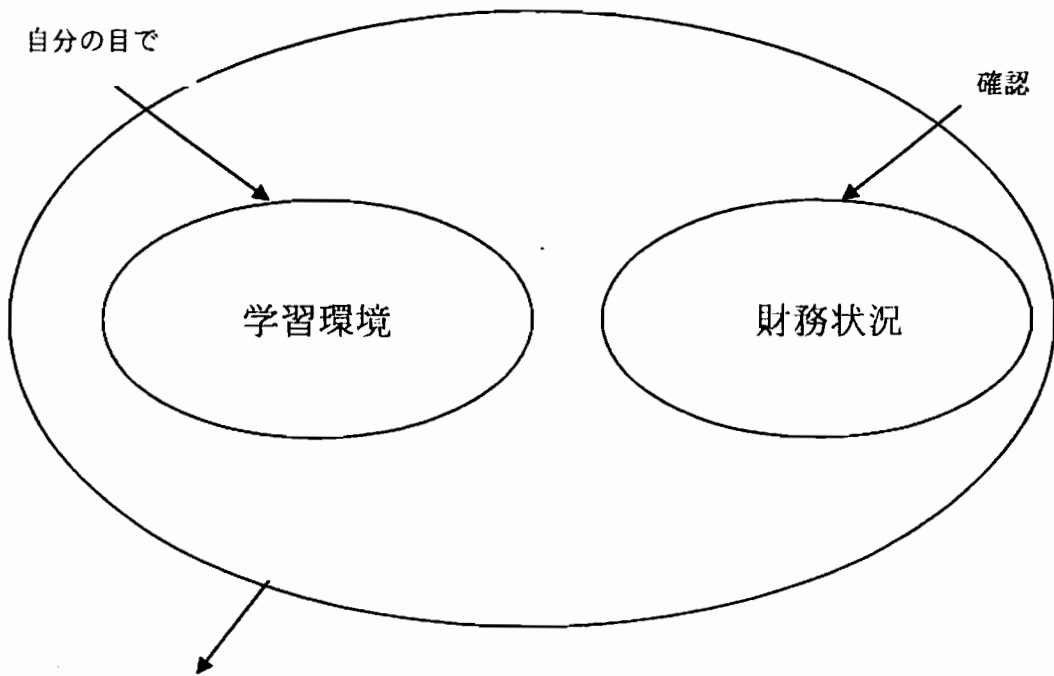
365の3 有効な予算執行とは…子ども・教職員・保護者の三位一体の視点が必要



365の6 ネットワーク



365の5 (Go!) 各職場の実践



学校の課題を把握 → カリキュラム達成に向けての実践 ⇔ 執行状況の確認



## (2) 情報発信

### ① つづけているよ「事務だより」

個人の事務だより



事務だより部会の誕生と活動

マンネリ化を防ぐ目的もある



部会による統一事務だよりを発行



市町村輪番制による事務だよりの発行



Yahooメールを利用した事務だよりの発行 例

事務研の案内  
事務連絡に活用  
会員全員が使用可

### ② 有田事務研の原動力

例 { 総合的な学習と事務職員という記事  
備品  
教科書改訂

### ③ 子どもたちへの事務カレンダー、職員への事務だより

事務職員が学校にいることのアピール

子ども達、保護者とのつながり

## (4) 施設改善

### ① 肢体不自由児向けの校舎改善 小学校の例

入学前の工事・備品

・エレベーター ・段差 スロープ ・寝台 ・畳コーナーと洗面所 ・車椅子用の机

入学後の対応

・体を動かすための備品 ・交流教室への机  
・畳を高くする→みかんのコンテナで代用 ・洗面台の改善  
・グレーチング交換 目の細かいのに ・外の段差解消  
・障害者トイレの改善→コンセント 湯沸かし器 ・音楽室入口の段差解消

対応できないものもあった

工事や備品では補えないこと

・ 車椅子が通れない時がある→スロープに來客者が靴を置く  
・ 非常時の対応はどうする？  
・ 見なければわからない 介助が2人必要 用務員 事務職員

- ・ たなの配列
- ・ 知識がない…

学んだこと、そしてこれから

- ・ 自分が聞いて、見て、確かめる
- ・ みんなの知恵を集める
- ・ 友達と楽しく過ごし、自立する手助けをしたい
- ・ 一人のためではなく、みんなのための環境づくりを  
保護者の不安を和らげる

## ②肢体不自由児向けの校舎改善 中学校での事例 障害者用トイレの設置

要望

- ・ 段差の解消
- ・ エレベーター←設置できなかった
- ・ 教室の出入口 としてをつけた→高さが合わなかった、扉の閉まるスピードが速い
- ・ ベランダへのスロープ
- ・ 畳 ・ 流し台 ・ トイレ
- ・ ベランダへの開き戸 木を固定
- ・ 生活訓練用流し台 最初は手回し→レバー式に変更

入学後

- ・ 交流教室はいつも一階
- ・ のぼりおりは担任が介助
- ・ 職員室等への出入口（1cm程度）の段差→ホームセンターで段差解消板を購入

当時の担任談

一番の願い 自分の力で校舎を全部回ること→かなえられなかった  
子どもの様子を自分の目で見るのが大切

## ③児童用玄関及び教室の環境整備

着任した時の印象が大事

児童玄関 暗くて息が詰まる→子どもの笑い声が響く憩いの場所に

暑い教室→目的を子ども達に伝えて温湿度調査を行った→扇風機・換気扇の設置へ

④予算要求に取り組んで

- ・ 職員アンケートの実施
- ・ 担当職員より生徒会からの提案→自転車置き場への防風壁の設置

⑤生徒会の要望から広がる施設改善

- ・ 生徒達への自覚を促す
- ・ 行政にはたらきかけやすい  
子ども達の学びの一助になっているのか？

⑥事務職員としてできること

破損が多かった

- ・ 校内安全点検の実施 ・ 事務だより
- ・ 生徒、教師とのかかわり ・ 目指す事務職員像

⑦職員作業で活用度大の施設へ

- ・ 資料室の整理
- ・ 美術室→多目的室へ

⑧無からの出発

- ・ 蛍光灯拭き・遊具・教室のワックスがけ・職員会議での提案・破れ窓理論  
安全な環境づくり

⑨職員全員で取り組む修繕

- ・ 年度末の施設修繕 事務職員の提案→全職員での作業 職員への働きかけ

和歌山支部よりの提案事項（＝午後の討議のテーマ）

1. カリキュラム経営を支える有効な予算執行
2. 事務職員からの情報発信の必要性・有効性について
3. 子どもを主人公にした学校づくり

午後 午前の部の質問の回答

1. 和歌山の8支部とは教育事務所の配置にリンクしているのか？  
→今まではそう、しかし教育事務所がなくなって給与分室のみがある。合併で今後変わるかも
2. 教育課程に関する研修例等をあげてください  
→まだできていない
3. 我々事務職員はどうすればいいのか？  
→きっかけは色々、感じたことをやってみようとする、考えてみる  
例：学校を歩く、事務便り

(宮前) 実現できていないという現実→だからこそ「今こそ」ではないか  
一緒に何ができるのか考えていこう

例：保護者の授業参観→来てくれるだけで学校に関心がある証ではないか

4. 決算書以外の実践率は？

→まだない

5. 決算書の公開の範囲は？

→とりあえず学校職員内 物品の金額、品名については学校ごと違う

6. Yahooメールの事務日より一般の人にも公開しているの？

→IDとパスワードが必要です

7. 有田統一事務日より市町村・小中学校の違いをすりあわせをしているか？

→研究収録P. 81を参照ください(別紙)

8. 事務カレンダーや事務日よりを作成するのにどのくらい時間がかかっていますか？

→月末に2~3日かけて作っています。家でも持ち帰ってやっていますが楽しいです。

9. 物品購入にあたってMSDSを確認していますか？

→行ってないです。

1. 学校財務について

学校規模によって発行の度合いが違う

予算については公開していない(教育委員会のチェック)

予算の執行と共同実施の関係は？

(宮前) 共同実施が広がっている。それこそ何ができるか職の確立を考えていく必要がある  
(和歌山) 県費は可能だけど市町村費執行はちょっと無理かな…

2. 事務職員からの情報発信の必要性

(ノート空欄)

3. 子どもを主人公にした学校づくりについて

大阪府泉南市立信達中学校 井神主査の例：生徒会の会計担当者に会計の重要性を話し、  
生徒会会計の執行の有効利用法を考えてもらった

MSDS 何を使ってその製品を作っているのか

有機溶剤(有機リン)入りのワックス→農薬を教室に撒いているのと同じである  
倒れる子どもはまだいい 倒れない子ども→将来凶暴化したり鬱病になったりする  
何世代にも渡って影響を及ぼしていくものである

c f. MSDSについて 「第一種指定化学物質、第二種指定化学物質及びそれらを含む製品（指定化学物質等）を他の事業者に譲渡・提供する際、その性状及び取扱いに関する情報（MSDS:Material Safety Data Sheet）の提供を義務付ける制度」をいいます。

URL <http://www.prtr.nite.go.jp/msds/msds.html>

#### 宮前教授 講話

- ・子ども達のため何ができるか
  - ・学校の教育活動は様々な相互的な関係の中にある
  - ・授業の成立=全職員が取り組んでいく
  - ・学校←子ども達の学びを確立するため、それぞれの立場で支えている
  - ・ 学校にいてこそその事務職員
  - ・ 特色ある学校づくり=教職員それぞれの取り組み
- ① 決算書=カリキュラム実践への参画の第一歩
- ↓ ・予算と結びつけた教育計画 カリキュラム経営参画
- 保護者へ何をどこまで公開していくのか=校長、教頭、事務職員
- 公費と私費のふりわけ
- 何にどれだけ予算を使ったかは学校にしかデータがない→予算ヒアリングへの対応
- ② 事務だより
- （過去）その職の意識形成 教職員レベル
- ↓ さらに一歩進んで
- （現在）外部に学校だよりと一緒に出す←情報管理の問題
- 情報は事務職員に集中して入ってくる→整理のために事務だよりは必要だ
- 統一事務だよりで一番良かったこと→事務職員の消化力
- 子ども向け、職員向け、保護者向け
- ↓
- 校長、教頭の決済を必ずとること（←情報管理の面等々で）

- 意義
- 1 文章化する→あいまいな思考を具体化させる
  - 2 自分の財産として蓄積していく
  - 3 教員への自覚を促す

#### ③施設

- 1 子どもが学校の主人公である
  - 2 事務職員が自らの目で見、感じたことをやっている
  - 3 何故事務職員がそのような行動をとれたのか→子どもを思う心（マインド）
- カリキュラム経営

本当に事務職員がやらなければならないことは何か？

全部100%はできない

何かひとつだけでいいからできる事務職員

事務職員の瞳は輝いているのか？！ ⇒ 専門職としての職の確立

- ・ 仲間を育てよう
- ・ 隣の学校の仲間と手をつなごう

第3日目 於：神戸国際展示場2号館 コンベンションホール

(1) 全体まとめ

事務職員が情報をどう取り扱っていくか

安全管理 学校施設

情報セキュリティ 組織マネジメント

情報公開 学校予算の公開

学校評価の公開

地域との関わり 開かれた学校

事務職員としての学校支援のあり方をさぐる大会

実践しなければならないこと

- ① コンプライアンス＝法規を踏まえて
- ② 企画・立案…お膳立てをする能力

情報は発信しなければ集まってこない

(2) 体験レポート「私の震災体験」 講師 元関西テレビアナウンサー 桑原 征平 氏  
(省略)

(3) 記念講演

「阪神・淡路大震災に学ぶーこれからの対策」 講師 前兵庫県知事 貝原 俊民 氏

1 災害列島 日本

(1) 神戸には地震がなかった

1994年まで 震度1~2 17回 東京では98回

過去に地震がないので過信していた

(2) 日本の風土

ドイツとの比較

ドイツー平地

日本 - 1. 山脈 沖積層

2. 環太平洋火山地帯

3. 多雨

4. 河川氾濫区域に人口の50%が住み、総資産の75%が存在している

5. 老朽木造住宅

6. GDP 533兆円

(3) 人口移動

過疎・過密

都市の危険 集中の脆さ

農山村ー若者減少・集落機能の崩壊→伝承の断絶

(4) 近未来における日本の不安定要因

自然災害ー地震活動期・地球環境の変化

人為災害ー科学技術の発展 例：サリン事件 琵琶湖の水に攻撃を受けたら…

国際情勢ー東アジアの不安定

生活様式ー都市文明の進展（核家族化、高齢化、国際化、生活の高度化等）

2 日本の危機管理

(1) 明治憲法下の危機管理

- ・ 中央集権国家
- ・ 任免権、統帥権=天皇
- ・ 国家消防、国家警察

↓ 敗戦

(2) 現行憲法下での危機管理

- ・ 民主国家
- ・ 人権尊重

- ・分権型防災体制 火災－市町村  
犯罪－県警  
侵略－自衛隊  
災害－市町村、県、国

(3) 危機管理の問題点

- ・平和な日本の繁栄、成長
  - ・防衛費GDP 1%枠
  - ・少ない自然災害
- } ⇒日本の国家に危機管理システムがない

3 自らの命は自ら守る－自助7割、共助2割

(1) 公的防災力の限界

- ・消防 消防力基準 西宮市 3/11 神戸市 10/60
- ・警察 定数 5,000人 宿直 1,200人
- ・自衛隊 中部方面第3師団 6,000人のうち兵庫県は1,200人

(2) 被救助者数推計

家屋に閉じ込められた者	約164,000人
上記のうち自力脱出者	約129,000人(78.7%)
被救助者数(死亡者含む)	約35,000人(21.3%)
うち公的機関によるもの	約7,000人(4.8%)
民間人によるもの	約27,100人(16.5%)

4 災害に備える－減災の考え方

(1) 防災力の国際

- ヨーロッパ－災害が少ない
- アメリカ－「回復力」＝ソフトウェア
- 日本－「抵抗力」＝ハードウェア

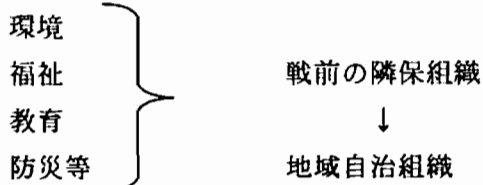
(2) 危機への備え

- ハード対策＝防災－被災防止
- ソフト対策＝減災－危機の想定と備え

(3) 高齢－成熟社会への対応

- ・我が国の災害救助体系の基本－自力復興
- ・高齢、成熟社会では－ソフトウェア、協力支援

(4) コミュニティの再生 防災コミュニティ－共助の仕組み





## 5. 学校と災害

### (1) 学校はコミュニティの中心

### (2) 学校防災マニュアル

#### 第1章 日常における安全対策

- 1 学校防災計画の策定
- 2 学校防災組織の確立
- 3 施設・設備の安全管理

#### 第2章 地震発生時の危機管理

- 1 児童生徒の安全確保及び保護
- 2 児童生徒の保護者への引渡し
- 3 盲・聾・養護学校、定時制高校における対応のポイント
- 4 学校施設・設備の被害状況の点検
- 5 学校再開へ向けた対応

### (3) 災害時における避難場所としての学校の果たす役割

- 1 避難所としての学校の対応
- 2 学校における避難所運営業務について
- 3 避難所運営に係る教職員の身分上の取り扱いについて
- 4 学校施設・設備の防災機能の強化について
- 5 地域・関係機関との連携
- 6 ボランティアの受け入れ

### (4) 新たな防災教育の充実

- 1 新たな防災教育について
- 2 防災教育推進計画
- 3 防災教育指導計画
- 4 防災（避難）訓練

### (5) 心のケア

- 1 年齢別に見た症状の特徴とその対応方法
- 2 子どもの話を聴くときは
- 3 心のケアについての基本的な考え方
- 4 教職員の心の健康管理について
- 5 災害時の応急対応・応急処置について

まとめ 全事研に参加してみての感想（口頭：震災を中心に）

